

後志地本通信

2013. 10. 11
— 第25号 —
自治労北海道
後志地方本部
〒044-8588
倶知安町北1東2丁目
後志総合振興局内
TEL 0136-22-6636
FAX 0136-21-2105

地本自治研集会終了!!

S過疎化・高齢化が進む中での地域の将来を見据えるS

10月4日(金)、ニセコ町のニセコグラウンドホテルにおいて後志地方本部自治研集會を単組・総支部の他、消防協・石狩地本自治研推進委員など38名(うち女性4名)が参加し、開催しました。

集會では、自治労北海道本部自治体政策部長の柳田基貴氏から『自治研活動について』と題し、自治研の目的や労働組合としての?など自治研活動をするの?などの講演をいただき、その

後、道本部の重点テーマである『過疎化・高齢化が進む中での地域の将来を見据える』をテーマにグループ討論を開催し、各グループで活発な討論が行われました。

後志についても、過疎化・高齢化が進んでおり2040年の推計で、人口が1000人を切る村が3村(島牧村・神恵内村・赤井川村)、限界集落(人口の半数以上が65歳以上)にあてはまるのが2町村(神恵内村・

積丹町)となることから、今後の地域とのつながり、公共サービスのあり方について、将来を見据え取り組んでいかなければならないテーマと考えております。

参加者がしつかりと問題の大切さについて学習を深めることができましたので、『自治研活動について』を再認識し、14年度の道本自治研集會につながるよう単組での自治研活動の推進に積極的に取り組むことを期待いたします。



さようなら原発北海道集會 in いわい

10月5日(土) 岩内町で北海道各地より約1500人が結集し脱原発集會を開催しました。

はじめに、さようなら原発1000万人アクション北海道「呼びかけ人」の発言として、北海道大学名誉教授・小野有五さんが「この会場にある、女神は泊原発にそっぽをむいている。奥尻の震災・津波で多くの人が犠牲になった。私たちは生かされていることを忘

れてはいけない。将来の子どもたちのため原発を止めることを誓い合おう」と訴えました。

その後、現地からの報告「再稼働」申請の原発立地県からの報告がそれぞれあり、集會アピールを採択し、倉本聰さんが発案した、「泊原発風船プロジェクト」

で約1000個のエコ風船飛ばしを参加者全員で行った。

集會後は、岩内町内をデモ行進して、「泊原発再稼働反対」「大間原発建設中止」を町民らに訴えた。

